



森脇 マルカワの蔵



森脇 マルカワの蔵 (1)

酒屋の蔵を改装してギャラリーにした「マルカワの蔵」(浜松市天竜区二俣)に寄る。皮革工芸作家の森脇弘子さん(73歳)の作品展が開かれていた。

この作品が目にとまる。なんというセンスの良さ。「母の一生」というタイトルが付けてある。

ちょうど作家の森脇さんがおられたので、お話を聞くことができた。

これは、母親の生涯をイメージして制作した。母親は円満な人で、まるくまるくおさめる人であったという。そんな母親のことを描いた作品だという。

森脇さんは、中国の満州ハルピンに生まれた。ソ連が開戦して、日本軍は降伏。父親はシベリヤに連れて行かれた。以来、強制労働に従事した。そして、昭和27年、シベリヤで亡くなったという。

お母さんは4人の子どもを連れて、満州から命からがら帰国した。戦後は、女手ひとつで4人の子どもを育てるなど、さぞやたいへんなことだったろう。

抑留中に父親が縫った足袋が、戦友の手によって届けられた。その時に、夫の死を知って母親は号泣したという。

※ソ連によって戦後に抑留された日本人は約57万5千人余。そのうち亡くなったのは、約5万5千人とも。厳寒の環境下で満足な食事や休養も与えられず、苛烈な労働に従事。シベリアのほか中央アジア、極東、モンゴル、ヨーロッパ・ロシアなどの約2,000の収容所、監獄に収容され、鉄道建設、炭坑・鉱山労働、土木建築、農作業などさまざまな労働に強制的に従事させられた。1946年12月から引き揚げが始まり、日ソ共同宣言が行なわれた年あたりまで続いたとされる。

令和元年6月30日まで、マルカワの蔵で個展が開かれている。
問い合わせ: マルカワの蔵 浜松市天竜区二俣町二俣1174 TEL090-7303-5263

浜松北部生きがい特派員 池谷 啓



[森脇 マルカワの蔵 \(2\)](#)